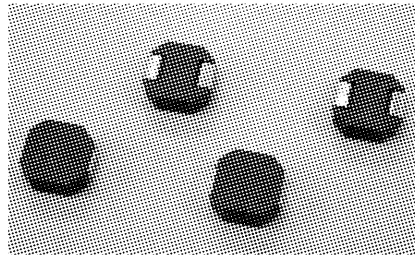


# 樹脂製コアで耐熱性向上

## サンシン電気 高周波用コイル開発



サンシン電気（東京都練馬区、石井宏宗社長、03・5987・5511）は、175度Cの高温に耐える耐熱高周波用コイル「SEAI07シリーズ」写真を開発した。

高温になりやすいエンジン周りの電装品や、パワー半導体の近くに実装できる。サンプル価格は70

円。月20万個体制で生産を始め、月産100万個を目指す。

コイルのコアを鉄から磁性樹脂に変更し、耐熱性を高めた。樹脂は防錆性が高く、塩水をかける加速試験では10年間経年劣化は見られなかった。鉄製のコアは鉄粉を固める接着剤や防錆のための

シリコンコーティングが熱で劣化し、錆びやすかった。

製品保証温度は150度C。トランススタなどは電子部品は保証温度をクリアしていたが、コイルのみ保証温度が105度C程度で、150度Cに届いていなかったという。電子基板の基本

部品すべてが150度Cの高温環境で使えるようになる。

電磁誘導の大きさを表すインダクタンスは、0.68μH（マイクロ

は100万分の1）に対応、10μHまでの高い周波数特性を備える。八角形の形状を採用し、四角形の従来品に比べて放射ノイズを半分に抑えた。